



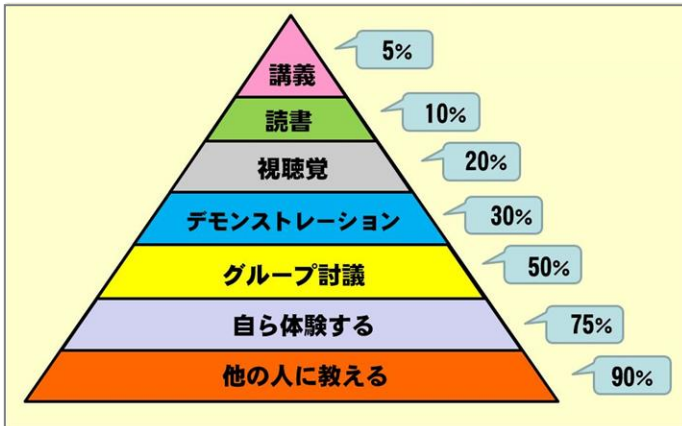
乙島っ子

令和3年度 NO. 36

令和3年12月15日 倉敷市立乙島小学校

学校行事の意味 ③ ～ 学習発表会 ～

「分かる」から「説明できる」でなく、「説明する」から「分かる」ようになる



左に示す「ラーニングピラミッド」は、学習方法と学習定着率の関係を表したもので、アメリカ国立訓練研究所の提唱によるものです。学校の授業や会社の研修などでは、講義・実技・議論などさまざまな方法で学習を行います。講義では定着率は5%にとどまるのに対し、グループ討議では50%、他の人に教えるとなると、定着率は90%にのぼるとされています。

この研究には、根拠のなさを指摘する人もいますが、言わんとするところは、人は、「分かる」から「説明できる」のではなく、「説明する」から「分かる」ようになる…ということであると考えられます。

コロナの影響で、これまでの「学芸」発表会は、「学習」発表会と、趣旨を見直し内容を替え、実施しました。この変更については、次の意義があると考えています。まず、「他の人に教える」ことで更なる学習の定着が図られるであろうということ。次に、発表の内容として、「学芸」は、観る人を感動させるが、余剰の練習時間が必要である一方で、「学習の成果」は、「時間の効率化」と「観る人の感動」の両捕りが期待できるということです。

「認識系」の教科等の発表

算数科、生活科等は、「分かる」「気付く」などが目的であり、これらの教科は、「認識系」の教科と呼ばれることもあります。また、総合的な学習も、「環境」「福祉」等、実社会の課題を追究し、「本質」に迫る「認識系」の領域です。



「表現系」の教科の発表

3年生「ダイナマイト」ほか、5年生「銀河鉄道999」ほかは、音楽科の学習成果の説明・発表。6年生は、朗読劇「走れメロス」で、国語科のものでしたが、朗読はもちろん、「劇」もれっきとした国語科の学習内容です。

